

# 第 210<sup>期</sup> 株主通信

平成29年4月1日→平成30年3月31日

130<sup>TH</sup>  
ANNIVERSARY

 KURABO

# 株主の皆様へ

---



取締役社長 藤田 晴哉

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループの第210期連結会計年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の概況につきまして、ご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益は高水準を保ち、雇用・所得環境も改善が続くなど、景気は緩やかながら回復基調で推移しました。一方、地政学的リスクや米中間の貿易摩擦への懸念など、今後の世界情勢を左右しかねない不安要素も発生しました。

このような環境下にあって当社グループは、2年目を迎えた中期経営計画「Advance '18」の基本方針である「収益拡大に向けた事業変革」のもと、将来市場を見据えたマーケット志向型事業への転換を図り、高付加価値かつ高収益ビジネスの追求、技術革新と新規事業創出などに注力しました。

この結果、当連結会計年度の業績につきましては、売上高は1,617億円（前年同期比0.0%減）、営業利益は68億7千万円（同11.6%増）、経常利益は73億5千万円（同11.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は48億6千万円（同35.7%増）となりました。

今後のわが国の経済情勢につきましては、雇用・所得の改善や経済対策の効果などにより、景気は今後も緩やかながら回復していくものと予想されますが、様々な地政学的リスクや貿易摩擦の拡大懸念など、今後の世界経済の動向には十分留意が必要であります。

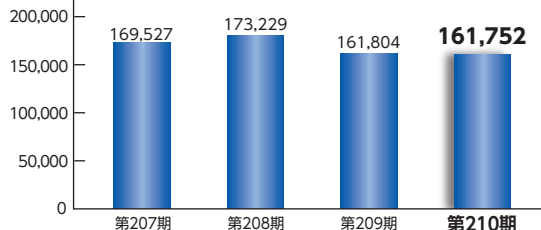
このような経営環境のもと、当社グループは、中期経営計画「Advance '18」の基本方針に沿って、高収益事業体制への変革を目指し、既存事業の収益力向上、保有する基盤技術を活用した新規事業の創出、グローバル展開の拡大などに注力いたします。また、引き続きコーポレートガバナンスの強化や法令遵守の徹底など、倫理ある事業活動の推進にも努めてまいります。

なお、当社は、お陰様で平成30年3月9日をもって創立130周年を迎えました。今後とも、株主の皆様をはじめとするステークホルダーの方に支持され、社会に存在価値を認められる企業として、グループとしての企業価値の向上を図ってまいります。

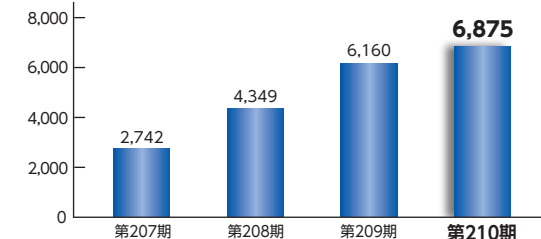
株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年6月

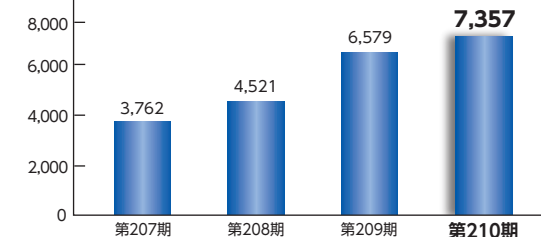
■ 売上高 (単位:百万円)



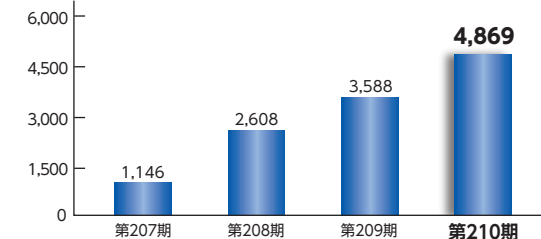
■ 営業利益 (単位:百万円)



■ 経常利益 (単位:百万円)

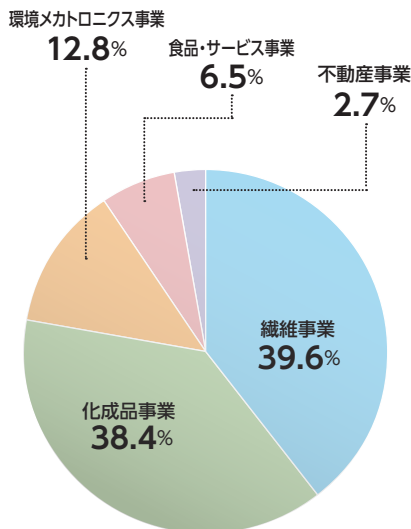


■ 親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



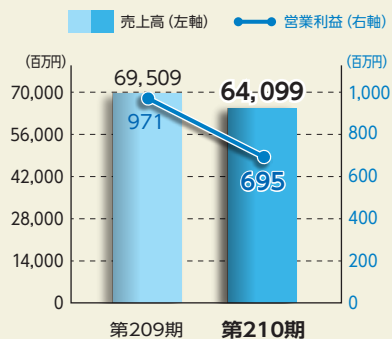
# 当社グループの事業概況

## 事業セグメント別売上高構成比率



総額 1,617億円

## 繊維事業



ユニフォーム分野は、需要の安定と付加価値商品の販売増加により堅調でした。

カジュアル分野は、国内販売が概ね堅調に推移したものの、原糸分野は、販売不振により低調に推移し、減収となりました。

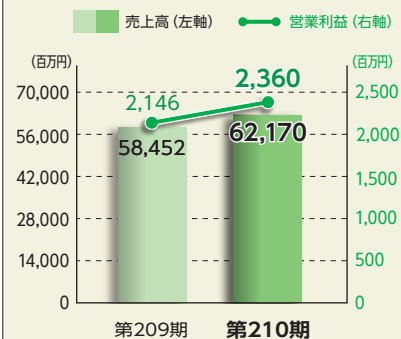
海外子会社におきましては、東南アジアは順調に推移し、ブラジルも業績が回復基調にあり、増収となりました。

この結果、売上高は640億円(前年同期比7.8%減)、営業利益は6億9千万円(同28.4%減)となりました。

### 繊維事業

- 綿、合繊、その他素材の繊維製品(糸、織物、編物および二次製品)の製造・販売
- 綿、合繊織編物の染色整理加工

## 化成品事業



自動車分野は、内装材向け軟質ウレタンフォームやフィルター向け不織布などが順調で、増収となりました。また、ブラジル子会社は、新規顧客への販売が本格化したことにより業績が改善しました。

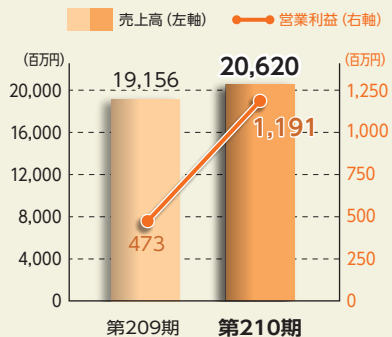
機能樹脂分野は、文具向けフィルムなどが順調に推移し、半導体製造向け樹脂加工品も好調で、増収となりました。住宅建材分野は、外装用化粧材やエクステリア商品などが低調に推移し、減収となりました。

この結果、売上高は621億円(前年同期比6.4%増)、営業利益は23億6千万円(同10.0%増)となりました。

### 化成品事業

- ポリウレタンフォーム、合成木材、無機建材、機能性フィルム、精密ろ過関連製品、高性能エンブラ製品、不織布および補強ネットの製造・加工・販売

## 環境メカトロニクス事業



エレクトロニクス分野は、飲料容器の検査装置が低調に推移しましたが、基板検査装置や液体成分濃度計などが順調で、増収となりました。

エンジニアリング分野は、バイオマス発電プラントの大型物件の完工により増収となりました。

バイオメディカル分野は、核酸自動分離装置などが低調に推移し、減収となりました。

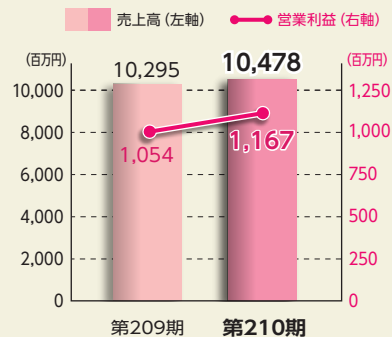
工作機械分野は、国内販売が堅調に推移し、海外も北米や中国向けが回復基調で、増収となりました。

この結果、売上高は206億円(前年同期比7.6%増)、営業利益は11億9千万円(同151.8%増)となりました。

### 環境メカトロニクス事業

- エレクトロニクス関連製品の製造・販売・保守
- 環境・エネルギー関連の各種プラント等の設計・製作・施工・販売、バイオマス発電事業
- バイオ関連製品の製造・販売
- 工作機械等の製造・販売

## 食品・サービス事業



食品分野は、健康食品向け製品が低調に推移しましたが、即席めん具材およびスープ市場向け製品が好調で、増収となりました。

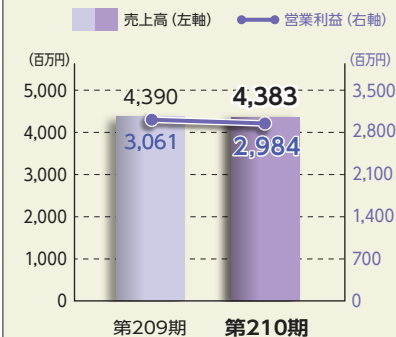
ホテル分野は、宿泊部門は堅調に推移しましたが、リニューアル工事に伴う一部施設の休止やゴルフ練習場の閉鎖の影響などにより、減収となりました。

この結果、売上高は104億円(前年同期比1.8%増)、営業利益は11億6千万円(同10.7%増)となりました。

### 食品・サービス事業

- フリーズドライ食品の製造・販売
- ホテル、自動車教習所等の経営ほか

## 不動産事業



賃貸事業の推進に注力しましたが、売上高は43億円(前年同期比0.2%減)となり、修繕費などのコスト増の影響により営業利益は29億8千万円(同2.5%減)となりました。

### 不動産事業

- 不動産の賃貸

## ホームページのご案内

>>> <http://www.kurabo.co.jp>

当社ホームページでは、会社案内やニュースリリースのほか、IR情報をお届けするため、「株主・投資家情報」のサイトを開設しています。

当社の開示資料を閲覧できる「IR資料室」、IR活動の日程をまとめた「IRカレンダー」など、株主の皆様のお役に立つ情報を提供しています。



# 連結財務諸表 (要旨)

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)	科目	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
流動資産	84,964	86,157	流動負債	52,154	51,626
固定資産	96,564	97,947	固定負債	33,129	32,038
有形固定資産	51,744	50,869	負債合計	85,284	83,664
無形固定資産	668	647	<b>純資産の部</b>		
投資その他の資産	44,151	46,429	株主資本	87,360	89,241
資産合計	181,529	184,105	その他の包括利益累計額	5,601	7,654
			非支配株主持分	3,282	3,545
			純資産合計	96,244	100,440
			負債純資産合計	181,529	184,105

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (平成28年4月1日～ 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年4月1日～ 平成30年3月31日)
売上高	161,804	161,752
売上原価	134,372	134,003
売上総利益	27,431	27,748
販売費及び一般管理費	21,270	20,873
営業利益	6,160	6,875
営業外収益	1,472	1,351
営業外費用	1,053	869
経常利益	6,579	7,357
特別利益	105	216
特別損失	615	264
税金等調整前当期純利益	6,069	7,309
法人税等	2,330	2,292
当期純利益	3,739	5,016
非支配株主に帰属する当期純利益	150	147
親会社株主に帰属する当期純利益	3,588	4,869

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (平成28年4月1日～ 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年4月1日～ 平成30年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,760	14,127
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,701	△3,689
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,942	△6,543
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	42
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,885	3,936
現金及び現金同等物の期首残高	18,372	16,486
現金及び現金同等物の期末残高	16,486	20,423

# 当社の株式に関する事項 (平成30年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 977,011千株
- 発行済株式の総数 242,939千株
- 株主数 15,794名
- 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社三井住友銀行	10,580	4.78
株式会社みずほ銀行	10,580	4.78
日本生命保険相互会社	9,200	4.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,442	3.81
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,352	3.32
株式会社中国銀行	7,265	3.28
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	6,158	2.78
GOVERNMENT OF NORWAY	4,672	2.11
三井住友信託銀行株式会社	4,120	1.86
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	4,037	1.82

(注) ①当社は、自己株式21,661千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
②持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 当社グループの概要 (平成30年3月31日現在)

### 当社

■創立 明治21年3月9日 ■本店 岡山県倉敷市本町7番1号

### ■主要な事業所

区分	名称	所在地	
営業所 および 研究所	大阪本社	大阪市中央区	
	東京支社	東京都中央区	
	技術研究所	大阪府寝屋川市	
工場	繊維	丸亀工場	香川県丸亀市
		安城工場	愛知県安城市
	化成品	徳島工場	徳島県阿南市
		寝屋川工場	大阪府寝屋川市
		裾野工場	静岡県裾野市
		群馬工場	群馬県伊勢崎市
		鴨方工場	岡山県浅口市
三重工場	三重県津市		

(注) 平成30年4月1日をもって熊本事業所(旧称「熊本開発センター」)を主要な事業所としました。

### 当社グループの従業員の状況

従業員数(前連結会計年度末比増減)(人) 4,591(△51)

(注) 従業員数は就業人員であり、上記のほか、臨時社員・パートタイマー1,077人がおります。

## 当社の重要な子会社の状況

区分	会社名
国内	倉敷機械㈱
	日本ジフィー食品㈱
	㈱クラボウインターナショナル
	倉敷繊維加工㈱
	東名化成㈱
	シーダム㈱
海外	㈱倉敷アイビースクエア
	クラシキ・ド・ブラジル・テキスタイル(有)
	タイ・クラボウ㈱
	㈱クラボウ・マノンガル・テキスタイル
	広州倉敷化工製品有限公司
広州倉福塑料有限公司	

(注) 上記記載の重要な子会社12社を含め、当連結会計年度の連結子会社は25社、持分法適用会社は2社であります。

## 当社の取締役 (平成30年6月28日現在)

代表取締役 取締役社長	藤田 晴 哉	取締役 執行役員	川野 憲 志
代表取締役 常務執行役員	北 畠 篤	取締役 常勤監査等委員	岡田 治
代表取締役 常務執行役員	馬 場 紀 生	社外取締役 監査等委員	茂木 鉄 平
取締役 執行役員	本 田 勝 英	社外取締役 監査等委員	新川 大 祐
取締役 執行役員	稲 岡 進	社外取締役 監査等委員	西村 元 秀
取締役 執行役員	藤 井 裕 詞		

(注) 社外取締役(監査等委員)茂木鉄平、新川大祐および西村元秀の3氏は、いずれも当社が定める「社外取締役の独立性に関する基準」の要件を満たしており、また東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員であります。

## 当社の執行役員 (平成30年6月28日現在)

専務執行役員	佐野 高 司	執行役員	相 德 朗 人
常務執行役員	藤原 秀 則	執行役員	平 田 政 弘
常務執行役員	八木 克 真	執行役員	中 川 眞 豪
常務執行役員	西澤 厚 彦	執行役員	松 井 一 雄
執行役員	中 村 潔	執行役員	西 垣 伸 二



## クラボウグループは創立130周年を迎えました

# 130TH ANNIVERSARY

130周年記念ロゴマーク

クラボウは、本年3月9日に創立130周年を迎えました。明治21年(1888年)、岡山県倉敷の地に「有限責任倉敷紡績所」として誕生し、130年の長きにわたり社業を発展させてまいりました。繊維から始まり、化成品やエレクトロニクス、エンジニアリング、食品・サービスなど多彩な分野に業容を拡大し、また数多くの社会貢献活動も行い、様々な領域で生活文化の向上に貢献してまいりました。これからも、社会を豊かにする新しい価値を生み出すため鋭意努力してまいります。今後とも株主の皆様の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### クラボウDNAとあゆみ——チャレンジ精神、行動力、好奇心などを胸に、数々の「面白い」を成し遂げてきたクラボウグループ

#### 1888年～ クラボウ創業期

初代社長 大原孝四郎の「やる可し、大いにやる可し」の言葉のように大きな野望を胸に。

**1895年** 中国向け綿糸の輸出を開始する際、品質の責任を明らかにするために、クラボウ独自の商標として3頭の奔馬をあしらった商標「三馬(登録商標)」を制作。高い格付け綿糸ブランドの証となった。



#### 1900年～ 社会貢献&事業拡大期

第二代社長 大原孫三郎によって成し遂げられた、従業員の働きやすい環境づくりから、地域社会への貢献。

- 1902年** 工場寄宿舎内に尋常小学校を設立するなど従業員の基礎教育を始める。
- 1909年** 工業の電力革命を見越し、倉敷電燈設立。地域の電化に貢献。
- 1921年** 職場環境を科学的に分析、改善するために倉敷労働科学研究所(現「大原記念労働科学研究所」)を開所。
- 1923年** 従業員に十分な健康管理・診療を行いたいとの思いと地域住民への医療の不備を見かねて「倉紡中央病院(現「倉敷中央病院」)」を設立。
- 1925年** 人絹事業化を決定し、合織事業へ多角化。1926年には倉敷絹織(現「クラレ」)を設立。
- 1930年** 大原美術館の開館。

#### 1950年～ グローバル展開 挑戦期

まだ他の日本企業が国内で展開している中、いち早く海外への進出を視野に。

**1957年** 国内繊維市場の成熟化に伴い、海外事業にも目を向け調査した結果、ブラジルは極めて将来性に富んだ有望な国であるという結論を得て、ブラジル倉敷毛紡(現「クラシキ・ド・ブラジル・テキスタイル」)を設立。海外への初進出を果たした。



ブラジル倉敷毛紡会社 原毛打込式



### ◆ 130周年特設サイト

特設サイトでは、社長メッセージ動画のほか、130年の歴史のなかで当社がチャレンジしてきた取り組みなどをご紹介します。また、新たにスタートした企業広告シリーズも順次掲載する予定です。

<http://www.kurabo.co.jp/130th/>

### ◆ 企業メッセージ広告

「面白いこと やってやろう。」をコンセプトとした新たな企業メッセージを新聞広告として掲載しました。これは、“何事にも面白いと感じる心を持って、喜びや驚きを生み出していこう”という企業姿勢を表現するもので、内容は、130周年特設サイトでもご覧いただけます。



130周年特設サイト

130周年特設サイトは  
こちらから



### ◆ 130周年記念ミニ冊子

130周年記念メッセージとして社外へ発信したメッセージ「面白いこと やってやろう。」に込められた思いをクラブウグープの全従業員にも知ってもらい、浸透を図るためにグループ従業員に向けたメッセージとこれまでの130年間の歴史などをまとめた冊子をグループ会社を含む全従業員に配布しました。



130周年記念ミニ冊子

## 1960年~ 多角事業 展開期

化成品、エレクトロニクス、  
エンジニアリング、バイオメディカル、  
食品、ホテル事業など多分野展開へ。

- 1962年** 日本で先駆けてフリーズドライ食品を開発した日本インスタント食品（現「日本ジフィー食品」）から経営を引き受ける。
- 1962年** マットレスや家具などで軟質ウレタンフォームの需要が高まることを見越し、化成品事業部を立ち上げポリウレタンフォームの本格的生産を開始。自動車用シートなどへの用途開発を進め事業の拡大を実現。
- 1970年** 排煙と廃水を中和させるという画期的なシステムKBCA排煙脱硫装置を開発。
- 1970年** 業界に先駆けてデニム事業に進出。
- 1973年** 創業時の工場建物を活用した倉敷アイビースクエアの竣工によりホテル事業へ進出。

## 1990年~ グループ・CSR経営 推進期

グローバルな視点で  
環境に配慮したものづくりやCSR活動を拡充。

- 1996年** 最新の環境対応設備を備えた染色加工を行う徳島工場竣工。
- 1997年** 軽さとソフト感を備えた綿100%の中空糸「スピンエア」を開発。
- 2004年** 高気密・高断熱を実現するノンフロンウレタンスプレー断熱システム「ソフティセルONE」を開発。
- 2007年** 水鳥の胸毛（ダウンボール）を模倣し、その特殊な形状を繊維で再現したバイオメディック素材「エアフレイク」を開発。
- 2008年** 分子レベルで様々な機能を結合する電子線グラフト重合技術を開発。

## 2010年~ イノベーション推進期

創業期から受け継がれるチャレンジ精神や、  
あらゆることを面白いがる姿勢で、  
新たなイノベーションを生み出す。

- 2012年** エンブラフィルムの開発を開始（三重工場竣工）。
- 2013年** フッ素樹脂加工製品を開発する熊本開発センター（現「熊本事業所」）を竣工。
- 2016年** クラブウグープ先進技術センター竣工。
- 2016年** エンジニアリング部の保有技術である「流動層ボイラ」と蒸気タービンを組み合わせた間伐材等を燃料とする徳島県初のバイオマス発電所を竣工。
- 2017年** 本格デニムのビンテージ表現とホワイトアイテムとのコントラストの両方を楽しめる「アクアティック」を開発。
- 2017年** 社会問題解決の視点から、暑熱環境下における作業リスク管理などに活用できるスマート衣料「スマートフィット」を開発。

## 繊維事業部

## 次世代の研究・開発拠点 「テキスタイルイノベーションセンター」を新設

繊維事業部は、本年4月に愛知県にある安城工場内に繊維事業の研究・開発拠点となるテキスタイルイノベーションセンターを新設しました。商品開発グループ、生産システム開発グループ、技術支援グループの3つのグループで構成され、紡績、織布、染色・加工、縫製の各工程のスペシャリストが研究・開発および技術者の育成に取り組めます。具体的には、商品開発グループは、これまでにない革新的な商品やサービスの開発に取り組む、必要に応じて生産設備の独自開発も行います。生産システム開発グループは、IoTも活用した各生産工程の見える化や省人化、自動化の研究開発を行い、スマートファクトリーの実現を目指します。また、技術支援グループは、熟練技術者のノウハウを若手

技術者へ短期間で伝承していくための教育ツールの開発や国内外の生産拠点への技術指導を行います。テキスタイルイノベーションセンターの新設により、繊維事業部のスローガンである「Your Best Partner - KURABO 喜びと驚きをお客様へ。」を象徴するような、これまでにない商品や生産システムをよりスピーディーに開発してまいります。



テキスタイルイノベーションセンター

## 化成事業部

## 高機能樹脂加工品の営業・開発・生産拠点 「熊本事業所」の新棟竣工

化成事業部は、熊本開発センター（熊本県菊池市）において建設を進めていた新棟の竣工に合わせて、同センターを4月1日付で事業所に昇格し「熊本事業所」とする組織変更を行いました。



熊本事業所の新棟

## 熊本事業所の概要

- 場所：熊本県菊池市
- 生産品目：高機能樹脂加工品
- 建物：鉄骨4階建て  
延床面積 3,357㎡
- 設備内容：クリーンルーム、  
高機能樹脂の  
各種加工設備、  
評価・分析関連装置  
一式

熊本事業所は、平成24年から、半導体製造装置に使用される耐薬品性に優れた高機能樹脂加工品の営業・開発・生産を行っております。電子機器のIoT化やスマート化などによる半導体産業の伸展により、高機能樹脂加工品の需要増加が見込まれることから、開発体制と生産能力の拡充を図るため、昨年9月から新棟の建設を進めてきました。

今回の新棟建設により、最新のクリーンルームや高機能樹脂の各種加工設備、評価・分析関連装置などを導入するとともに、人員の増強を行い、開発・生産能力は従来の2倍以上となります。

今後は、市場拡大が見込まれる半導体製造関連分野において高機能樹脂加工品の販売を一層拡大してまいります。

## 産業用ロボットの目となる 高速3Dビジョンシステムを開発

技術研究所は、産業用ロボット向けに物体の形状や位置を認識させるための高速3Dビジョンシステムを開発しました。現状のロボットは、ネジやボルトなど、対象や形状が決まった部品を扱う工程の自動化で活用されています。しかし、形状がその都度変化する布などの繊維素材や揺れ動く電線・ケーブルなどの形状を正確に計測することは困難であったため、これらの柔軟物を扱う生産現場では、産業用ロボットによる自動化が難しいという問題がありました。

技術研究所では、この問題を解決するため、ロボットの「目」の役割をする高速3次元カメラと、その「目」が認識した情報を基に考える「脳」の役割を担う画像認識技術を進化させ、物体の形状や位置を高速で割り出し、産業用ロボットの動

きを制御する高速3Dビジョンシステムの開発に取り組んできました。その技術の活用事例としてTシャツ折り畳みロボットを製作し、昨年11月の「2017国際ロボット展」などで公開し、



Tシャツ折り畳みロボット

注目を集めました。このロボットは、高速3Dビジョンシステムを使ってTシャツの表裏や畳む際に必要なロボットが掴む場所を高速で認識し、ロボットが自分で考えてTシャツを畳むことができます。

この技術を活用し、平成30年度には、まだ自動化が遅れている配線作業や繊維の縫製作業の効率化に貢献できるロボット用高速3Dビジョンシステムの実用化を目指します。

関係会社:大正紡績(株)(株)倉敷アイビースクエア

## くらしきコットンプロジェクトに 大正紡績(株)と (株)倉敷アイビースクエアが参加

大正紡績(株)と(株)倉敷アイビースクエアは、クラブウ創業の地である岡山県倉敷市主催の「～地域を紡ぐ～くらしきコットンプロジェクト」へ参加しました。

このプロジェクトは、昨年、倉敷・児島・玉島の旧3市が合併して50周年を迎えたことを記念して、地元で収穫したコットンで倉敷産ジーンズを製作するというプロジェクトです。

昨年5月に種植イベントを開催、市内全小学校や各家庭で栽培が行われ、11月には約600kgのコットンが市内で収穫されました。そのコットンを、特殊糸のスペシャリス

トである大正紡績(株)がジーンズ用の糸にしたのち、倉敷市内の企業が糸を使用した倉敷産のオリジナルジーンズを製作しました。

オリジナルジーンズは、本年3月に(株)倉敷アイビースクエアで開催された「くらしきコットンプロジェクト展」で発表され、国内外での倉敷市のPRに活用されています。

大正紡績(株)、(株)倉敷アイビースクエアなどこのプロジェクトに協力した12の企業や団体に対しては、伊東倉敷市長からデニムで作られた感謝状が贈呈されました。



左から(株)倉敷アイビースクエア 小林社長、倉敷市 伊東市長



倉敷紡績株式会社

<http://www.kurabo.co.jp>

---

## 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日
  - (1) 定時株主総会・期末配当金 毎年3月31日
  - (2) 中間配当金 毎年9月30日
- 公告の方法  
電子公告の方法により行います。  
公告掲載URL <http://www.kurabo.co.jp>  
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
- 単元株式数 1,000株
- 株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関  
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
大阪証券代行部  
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
電話 0120-094-777 (通話料無料)

---

### 【ご注意】

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。

### 【株式併合と単元株式数変更に関するお知らせ】

- 第210回定時株主総会において、平成30年10月1日をもって、当社株式10株を1株の割合で併合することをご承認いただきました。また、単元株式数についても同日付で1,000株から100株に変更いたします。詳細につきましては、当社ホームページ(<http://www.kurabo.co.jp/ir/pdf/tangenkabu201805.pdf>)に掲載の平成30年5月11日付「単元株式数の変更、株式の併合および定款の一部変更に関するお知らせ」をご参照ください。